

平成30年度 単位施策評価表

所属 35200000
上下水道局 水道建設課

施策	1201 上水道の整備・管理							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	効率的かつ安定的な水の供給、水道統合事業の推進、既設管路の適切な維持・管理・更新等を図る。							
成果指標	行政区域内普及率 5年間(H30～H34)普及率91.0%(現状値90.8%) 有収率 5年間(H30～H34)有収率80.0%(現状値74.0%)							
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定	90.80	90.80	90.90	90.90	91.00	
		実績	91.30					
	成果指標2 [%]	予定	75.00	76.00	77.00	78.00	80.00	
		実績	73.92					
		単位コスト	56,623.31					
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
トータルコスト (千円)	予定	4,394,896	4,870,441	4,873,450	0	0		
	実績	4,185,595	4,870,441	4,873,450	0	0		
内部評価	貢献度	・寺尾地区での簡易水道整備事業が終盤に差し掛かり、普及率の向上が期待できる。 ・施設整備計画に基づき、計画的に施設や管路を更新することで有収率の向上を図る。						
	達成状況	・普及率に関しては、前年度から0.5ポイント上昇し、目標値をクリアした。 ・有収率に関しては、前年度から0.13ポイント低下し、目標未達成となった。						
	課題	・普及率の上昇については、行政区域内人口減少が主な理由である。 ・有収率が下がる要因として、耐久性が低い塩ビ管の管路が経年化してきたためである。						
	取組方針	・漏水状況により管路の老朽度を調査分析し、漏水調査や管路更新事業に反映させる。 ・管路の更新事業の事業量や施工箇所を見直し、経年化率の上昇を抑える。						
外部評価	指標である「有収率」について、目標値75.0%に対し、73.92%と達成していない状況である。職員からの説明の中で、管の耐久年数は約40年であるが、それに対し、改修率は約1%しか出来ていないという説明を受けたが、それでは、管を全部直すには約100年かかってしまうため、矛盾が生じていると思われる。確かに管の改修には費用が掛かってしまうので市民への利用者負担は生じてしまうかもしれないが、十分説明をし、適切に対応すべきであると思う。現状を見ると、有収率の大きな改善には繋がらず、25%以上の水を捨てているように思われるので、早急な対応をお願いしたい。 また、漏水を見つけることも技術が必要であるとも言われており、管の改修作業にも役立つと思われるため、そのような技術者の養成も必要と思われる。							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	463201	上水道整備事業費				233,816	100	
	463401	固定資産取得費				7,356	100	
	463501	原水及び浄水施設管理事業費				434,254	100	
	463601	配水及び給水施設管理事業費				355,297	100	
	464103	老朽管更新事業費				180,090	100	
	464401	水道施設耐震化事業費				13,068	100	
	464501	寺尾地区簡易水道事業費				234,771	100	
	464601	栃木市水道統合事業費				40,662	100	
	466101	受託工事費				81,358	100	
469202	水道設備更新事業費				286,858	100		

單位施策評價表

所属 35200000

上下水道局 水道建設課

[illegible]

単位施策評価表 補表

施策	1201 上水道の整備・管理		
区分	妥当性	妥当	上水道は、市民のライフラインとしてとても重要であり、整備・管理を適正に行うことには妥当性がある。
	コスト削減の余地	有	施設改修や管路工事において、新しい技術や製品を採用することで使用年限の延伸やコスト縮減できる。
	受益者負担	適正	事業運営は、受益者からの水道料金で賄っている。
	上位貢献度	有効	基本施策の達成には、安全で良質な水の安定供給は必須である。
	類似事業の有無	無	水道事業に類似事業はない。
	成果向上の余地	有	水道ビジョン策定により、より効果的で効率よい水の安定供給を図る。
内部評価	貢献度	寺尾地区簡易水道整備事業が令和元年度末に完了することで、水道未普及地域であった寺尾地区に水道管の管網が整備され、水道加入者が増加し普及率の向上に繋がる。	
	達成状況	普及率は目標を達成することができたが、有収率については、配水管の漏水修理を70件実施したが、前年度から0.13ポイント低下し、目標に到達しなかった。	
	課題	・普及率が目標値を超えた要因として、行政区域内の人口が減少したことによるものである。 ・配水管のうち耐久性が低い塩化ビニル管の老朽化が進んでおり、老朽化した管路を更新していく必要がある。	
	取組方針	漏水状況により発生頻度や管路の老朽具合など調査分析し、漏水調査の範囲や管路更新事業の優先順位付けなどに反映させる。また、塩化ビニル管の更新事業の事業量を相当量確保し、経年化率の上昇を抑える。	